

国語－２（第１学年） 行事等の案内や報告をする文章を書く事例（書くこと）

【学習活動の概要】

1 単元名	学校からの「お知らせ」を書き換えよう ～伝えたい事柄について、自分の気持ちを根拠を明確にして書く～							
2 単元の目標	三者面談を行うに当たっての自分の気持ちを加えて、学校からの「三者面談のお知らせ」を書き換えることができる。							
3 評価規準	【国語への関心・意欲・態度】 案内をする文章の形式や役割を意識して、自分の気持ちを加えた「お知らせ」を完成させようとしている。 【書く能力】 お知らせする事柄について、自分の気持ちを根拠を明確にして書いている。 【言語についての知識・理解・技能】 件名と本文との字の大きさを変えるなど、文字の大きさ、配列などを考えて読みやすく整った楷書で書いている。							
4 教材	学校からの「三者面談のお知らせ」							
5 主な学習活動	(1) 単元の展開（全３時間）							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="359 963 949 1019">学習活動</th> <th data-bbox="949 963 1404 1019">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="359 1019 949 1288"> 第１～２時（本時） 学習の見通しをもつ。 学校からの「三者面談のお知らせ」を読み、記載事項を確認する。 自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理し、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。 </td> <td data-bbox="949 1019 1404 1288"> ○「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換えるという具体的な活動を通して、案内をする文章を書く相手と目的を明確にする。 ○自分の気持ちを読み手に的確に伝えるために、具体的な出来事等を根拠にするとよいことを知らせる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1288 949 1568"> 第３時 記載事項の過不足、自分の気持ちの根拠が明確に示されているかなどについて、自分が書いた「自分流・三者面談のお知らせ」を推敲する。 推敲した「自分流・三者面談のお知らせ」について友達と意見交換し、修正する。 （完成した「自分流・三者面談のお知らせ」を読み手に手渡す。） </td> <td data-bbox="949 1288 1404 1568"> ○推敲の観点が、意見交換の際の観点となることを確認する。 ○実際に手渡した相手の反応も踏まえた上で、学習を振り返らせると効果的である。 </td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第１～２時（本時） 学習の見通しをもつ。 学校からの「三者面談のお知らせ」を読み、記載事項を確認する。 自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理し、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。	○「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換えるという具体的な活動を通して、案内をする文章を書く相手と目的を明確にする。 ○自分の気持ちを読み手に的確に伝えるために、具体的な出来事等を根拠にするとよいことを知らせる。	第３時 記載事項の過不足、自分の気持ちの根拠が明確に示されているかなどについて、自分が書いた「自分流・三者面談のお知らせ」を推敲する。 推敲した「自分流・三者面談のお知らせ」について友達と意見交換し、修正する。 （完成した「自分流・三者面談のお知らせ」を読み手に手渡す。）	○推敲の観点が、意見交換の際の観点となることを確認する。 ○実際に手渡した相手の反応も踏まえた上で、学習を振り返らせると効果的である。	
学習活動	言語活動に関する指導上の留意点							
第１～２時（本時） 学習の見通しをもつ。 学校からの「三者面談のお知らせ」を読み、記載事項を確認する。 自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理し、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。	○「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換えるという具体的な活動を通して、案内をする文章を書く相手と目的を明確にする。 ○自分の気持ちを読み手に的確に伝えるために、具体的な出来事等を根拠にするとよいことを知らせる。							
第３時 記載事項の過不足、自分の気持ちの根拠が明確に示されているかなどについて、自分が書いた「自分流・三者面談のお知らせ」を推敲する。 推敲した「自分流・三者面談のお知らせ」について友達と意見交換し、修正する。 （完成した「自分流・三者面談のお知らせ」を読み手に手渡す。）	○推敲の観点が、意見交換の際の観点となることを確認する。 ○実際に手渡した相手の反応も踏まえた上で、学習を振り返らせると効果的である。							
(2) 本時の学習（１～２/３時間）	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="255 1646 1404 1993"> ① 三者面談に臨むに当たっての自分の気持ちを加えて、学校からの「三者面談のお知らせ」を書き換えることを理解する。 ・単元の見通しをもち、言語活動に対する関心・意欲を喚起する。 ② 読み手に自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理する。 ・案内をする文章に必要な項目及び紙面を考え、適切な分量になるよう気を付ける。 ③ ②を基に、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。 その際、以下の点を確認する。 ・必要な記載事項は書けているか。 ・根拠（具体的な出来事等）を明確に示して自分の気持ちが書けているか。 ・案内する文章として、文字の大きさ、配列等は適切か。 </td> </tr> </table>		① 三者面談に臨むに当たっての自分の気持ちを加えて、学校からの「三者面談のお知らせ」を書き換えることを理解する。 ・単元の見通しをもち、言語活動に対する関心・意欲を喚起する。 ② 読み手に自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理する。 ・案内をする文章に必要な項目及び紙面を考え、適切な分量になるよう気を付ける。 ③ ②を基に、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。 その際、以下の点を確認する。 ・必要な記載事項は書けているか。 ・根拠（具体的な出来事等）を明確に示して自分の気持ちが書けているか。 ・案内する文章として、文字の大きさ、配列等は適切か。					
① 三者面談に臨むに当たっての自分の気持ちを加えて、学校からの「三者面談のお知らせ」を書き換えることを理解する。 ・単元の見通しをもち、言語活動に対する関心・意欲を喚起する。 ② 読み手に自分が知らせておきたいこと、読み手が知りたいことを整理する。 ・案内をする文章に必要な項目及び紙面を考え、適切な分量になるよう気を付ける。 ③ ②を基に、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換える。 その際、以下の点を確認する。 ・必要な記載事項は書けているか。 ・根拠（具体的な出来事等）を明確に示して自分の気持ちが書けているか。 ・案内する文章として、文字の大きさ、配列等は適切か。								

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例では、中学校学習指導要領・国語の第1学年「書くこと」の指導事項「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」を指導する。自分の考えや気持ちを読み手に的確に伝えるためには、思いをただ繰り返すだけではなく、根拠となる事柄や具体例を示すことが必要となる。

さらに、関連する内容として、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(2)ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。」を位置付ける。書写の時間における指導を踏まえて、紙面全体に対して、件名や本文などの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること、整った楷書で丁寧に書くことなどを指導する。

【言語活動の充実の工夫】

上述の内容を効果的に指導するために、言語活動を設定する。第1学年「書くこと」の言語活動例は、次の3つであり、本事例では、ウの言語活動例を具体化した。

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
- イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
- ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

本単元では、自分の気持ちを加えて「三者面談のお知らせ」を自分流に書き換え、読み手に手渡すという学習過程を組むことで、次のようなことを思考・判断しながら表現させるようにした。

①三者面談に向けて、一般的な記載事項（日時、場所等）以外に、読み手に伝えたいこと、読み手が知りたいことは何かを考えて、加えるべき自分の気持ちを書く。

例：母は休み時間の過ごし方をよく聞くので、「休み時間は教室で友達と過ごしていることが多い」と書こう。でも、それだけでは気持ちが伝わらないから「楽しい」と加えよう。

②案内をする文章であることを意識して、件名や本文などの文字の大きさや配置を考える。

例：一般的な記載事項は、学校からの「三者面談のお知らせ」の配置を生かそう。自分の気持ちのところの「みんなと～楽しく過ごしています。」というところは、母が一番知りたいことだと思うから、少し大きく太い字で書こう。

交流の場面では、「自分流・三者面談のお知らせ」を、本来の読み手になったつもりで互いに読み合うことで、明確な相手意識の基にアドバイスをさせる。また、他の人のお知らせを読む中で新たなものの見方や考え方に気付いた場合は、内容の修正に生かすようにさせる。

「交流」の際のアドバイスの例：

- ・親に渡すからとは言ってもいきなり「三者面談で…」で始まるのではなく、案内の文章なのだから最初に季節のあいさつなどを入れた方がいいと思う。
- ・もう少し自分の長所を書いた方が親も安心して三者面談に来るのでは？勉強のことは書かなくていい？（確かに、みんなのお知らせには大体勉強のことが書いてあるな。）

（右上は、上のアドバイスを生かして修正した生徒の「自分流・三者面談のお知らせ」）

生徒作品の例

22.7.1(木)

()

〇〇流
三者面談のお知らせ

暑い季節になってきました。毎日おいしいお弁当ありがとうございます。

さて、夏休み前の三者面談についてお知らせします。

1. 日時 → 7月12日(月) 15:00～16:15

2. 場所 → 3年4組の教室(4Fです)

休み時間は教室で友達と過ごしていることが多いです。
みんなとワイワイ、ガヤガヤ楽しく過ごしています。
部活動の長距離練習では「校舎まわりジョック」を中心にがんばっています。暑くてつかれるけど楽しいです。
最後に勉強の事です。面談ではテストのことが話題になると思いますが、一応努力していたということをお忘れしないでください。これからも努力します。
では、当日よろしく願います。